

弘前大学大学院医学研究科（がんゲノム医療学講座）教員公募要項

1. 募集職種・人員 **教授 1名**
2. 任 期 10年
 ※ 弘前大学は教員の任期制を導入しており、大学院医学研究科の教授の任期は10年（再任可）となります。
3. 所 属 大学院医学研究科 がんゲノム医療学講座
4. 専 門 分 野 がんゲノム医療学
5. 担 当 科 目 医学部医学科 : がんゲノム医療学講義（仮称）、がんゲノム医療学演習（仮称）、特別教育科目（研究室研修）、PBL、総合教育演習Ⅱ、臨床実習Ⅰ・Ⅱ
 大学院医学研究科 : がんゲノム医療学Ⅰ（仮称）、がんゲノム医療学Ⅱ（仮称）
 教養教育 : 専門領域に関わる科目等
6. 採用予定時期 令和 8年 1月 1日 以降
7. 待 遇 (1) 給与については、国立大学法人弘前大学職員給与規程が適用になります。
 (2) 労働条件については、弘前大学の定める規程等によります。
8. 応 募 資 格 次の要件すべてを満たす者
 (1) 医師で、がんゲノム医療に関する教育、研究及び診療に熱意を有し、かつ、当該領域において先進的医療を実践できる者。
 (2) 博士の学位を有し、大学院医学研究科（博士課程）において主指導教員として教育研究指導ができる者。
 (3) 国際交流を推進できる者。
 (4) 一般社団法人日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価が教員に求める能力を有する者。
9. 応 募 書 類 次に挙げるすべての書類
 (1) 履歴書 【様式1】
 写真（カラー、4cm×4cm、3ヶ月以内に撮影したもの）を貼付してください。
 (2) 研究実績目録 【様式2の1の1～2の7】
 以下の区分・順序により記載してください。なお、研究業績目録のうち学位論文には◎印を、主要業績（別冊提出論文）には○印を、応募者氏名にはアンダーラインを付してください。また、欧文原著、欧文症例報告、欧文総説については、掲載年にかかわらず、クラリベイト・アナリティクス社「Journal Citation Reports」による直近のインパクトファクター（IF）値を記入してください。
 ①原 著
 ②症例報告
 ③総 説
 ④その他
 ⑤著 書
 ⑥学会発表（特別講演、宿題報告、シンポジウム、パネルディスカッションなど
 主要なもの、及び国際学会）
 (3) 研究教育等実績一覧 【様式3の1～3の5】

- ①教育実績
- ②社会及び学会における活動実績
- ③研究補助金等の実績
- ④診療経歴
- ⑤最近5年間に関与した症例50例
- (4) 応募者周辺の方へのアンケート調査に係る同意書 【様式4】
- (5) 教育、研究、診療等に対する抱負 【様式5の1～5の4】
 - ①教育に対する抱負
 - ②研究に対する抱負
 - ③診療に対する抱負
 - ④講座運営・地域医療に対する抱負
- (6) 主要業績の別刷（10編以内） 各2部
別刷は、事後に返却いたします。
- (7) 関係者の推薦書
厳封の上、別便で推薦者から直接送付してください。
- ※ 応募書類（様式等）については、大学院医学研究科ホームページ「教員公募情報」
(<http://www.med.hirosaki-u.ac.jp/web/teacher.html>) からダウンロードできます。

10. 応募期限 令和 7年 8月19日（火） 17時【日本標準時】

11. 選考方法 (1) 書類審査
(2) 選考の過程において、応募者周辺の方に対して、応募者の教育、研究、診療、管理運営の参加の状況等についてのアンケート調査を実施します。また、選考委員との面接、模擬講義、教育・研究に関する抱負等の発表のため弘前大学にお越しいただく場合があります。

12. 書類提出先 〒036-8562 青森県弘前市在府町5
弘前大学大学院医学研究科内教授候補者選考委員会 宛
※封筒に「教員応募書類（がんゲノム医療学講座）在中」と朱書きし、簡易書留、レターパック、EMS、その他法令で認められる送付方法により、送付記録の残る方法で送付してください。

13. 問い合わせ先 〒036-8562 青森県弘前市在府町5
弘前大学医学研究科総務グループ（総務担当） 齋藤
TEL：0172-39-5539 E-mail：jm5194@hirosaki-u.ac.jp

14. その他 (1) 弘前大学は男女共同参画を推進しています。業績及び資格等に関わる評価が同等と認められる場合には女性を優先的に採用します。面接時の交通費支援を含む支援策については、男女共同参画推進室ホームページをご覧ください。
(ホームページのURL <https://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/>)
(2) 弘前大学では、女性の方、外国人の方の積極的な応募を歓迎いたします。
(3) 必要に応じて他の学部・研究科等の教育や業務、あるいは教養教育等を担当していただく場合があります。
(4) 応募書類により取得する個人情報、本公募による教授候補者の選考及び採用時の人事、給与、福祉関係等必要な手続きにのみ利用するものであり、この目的以外で利用又は提供することはありません。

令和 7 年 3 月 3 日

がんゲノム医療学講座教育・研究組織に関する提言

1. 講座のあり方と方向性

患者個々のがん遺伝子情報に基づいて最適な治療法を選択する個別化医療 (precision medicine) が標準治療となり、がんゲノム医療体制の整備と人材育成ならびに研究の推進が求められている。本学附属病院においては、2019年9月に厚生労働省より「がんゲノム医療拠点病院」(全国 34 施設/東北地方 2 施設)に指定され、腫瘍センター内がんゲノム医療室を開設し、がんに関わる診療科および基礎講座の協力体制のもとで運営がなされている。しかしながら、がん医療の高度化・複雑化と対象症例の増加に伴い、専門的な診療に対応できる人材の確保と教育・研究体制の整備が喫緊の課題となっている。

2. 診療

附属病院においては、がん医療に関わる診療科・部門ならびに基礎講座との連携の中でがんゲノム医療を主導し、実践することが求められる。また、腫瘍内科ならびにがん医療に関わる診療科と連携してがん診療を担うことが求められる。

3. 教育

卒前・卒後教育の全てにおいて、がんゲノム医療の教育体制を整備し、実践することが求められる。また、がん以外のゲノム医療についても関連する講座と連携して教育活動の中核を担うことが求められる。

4. 研究

上記の診療・教育に関連した臨床的、基礎的研究を推進していくことが求められる。

5. 社会活動

地域医療に対して積極的に貢献することが求められる。

6. その他

がんゲノム医療学講座の構成員として、第一に求められるものは、卓越した臨床能力と、それを追求する真摯な姿勢である。特に、教授には、がんゲノム医療拠点病院としての役割を担う附属病院の中核となり、診療機能の充実を果たすとともに、講座・診療科を統率する能力を有する人物が求められる。

がんゲノム医療学講座教育・研究組織提言委員会

石橋恭之 (委員長)、袴田健一 (副委員長)、藤井穂高、
伊東 健、櫻庭裕丈、田坂定智、佐藤 温、畠山真吾